

## 英国自治体による新型コロナウイルス対策における多様性への配慮

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、英国政府や自治体は、住民への情報提供、人々の精神的なケア、感染リスクを下げるためのルールの遵守、ワクチン接種の推進など、多くの課題に直面してきた。

新型コロナウイルスの流行により、経済的にも、死者数の面でも、マイノリティの人々がより大きな打撃を受けているという複数の調査結果が出ている。<sup>1</sup>そのため、英国の自治体は、そのようなコミュニティにリーチし、適切なサポートの提供を可能にすることが不可欠となった。このレポートでは、グレーター・マンチェスターとロンドン市内の区などがどのように対処したかについて報告する。

### 用語の解説

社会的結束：社会の構成員の間の相互依存関係、忠誠心の共有、連帯感など

インクルージョン：異なる背景を持つさまざまなグループや個人が、文化的・社会的に受け入れられ、歓迎され、平等に扱われる組織的な取り組みと実践のこと

### 政策やサービスの提供に役立つデータの収集(グレーター・マンチェスター)

グレーター・マンチェスターは、域内のマンチェスター市の少数民族の割合が33.4%(2011年国勢調査)と周辺地域で最も高い割合を占めているなど、英国の中でも文化的多様性の高い都市である。<sup>2</sup>グレーター・マンチェスターは、パンデミックの間、住民のさまざまなグループがどのように過ごしていたか、また、どのようなサポートが必要かを判断するために、彼らについての詳細なデータを収集することを優先事項の一つとした。これにより、住民とのコミュニケーションや関与を、実際の状況に基づいて適切に実施するとともに、ターゲットを絞ることが可能になった。この調査はインターネットと電話で毎月少なくとも1,000人以上の住民を対象に行われ、パンデミックに係る関心、不安、影響は、若者、エスニック・マイノリティ(特にアジア系)、イスラム教徒、英語を母国語としない人々に特に多く見られていることが明らかになった。<sup>3</sup>

この調査の結果は、新型コロナウイルスに対するグレーター・マンチェスターの対応、特に住民や企業へのメッセージの内容やアプローチを新たに構築したり、改善したりすることに役立った。マンチェスター市では現在、新型コロナウイルスに関するオンラインサービスへのアクセスを支援するためのリーフレットを22言語でダウンロードできる体制を整えているほか、テスト&トレース(検査と感染者の追跡)に関する情報やガイダンスを12言語(字幕と手話付き)で提供したり、新型コロナウイルスのワクチン接種プログラムに関する情報をコミュニティで共有するための説明資料を13言語で翻訳したりと、多くの多言語

<sup>1</sup>Office for National Statistics, Why have Black and South Asian people been hit most by COVID-19?", 14 December 2020.  
<https://www.ons.gov.uk/peoplepopulationandcommunity/healthandsocialcare/conditionsanddiseases/articles/whyhaveblackandsouthasianpeoplebeenhithestbycovid19/2020-12-14>

<sup>2</sup>マンチェスター市議会ウェブサイト、人口ページ、  
[https://secure.manchester.gov.uk/downloads/download/4220/public\\_intelligence\\_population\\_publications](https://secure.manchester.gov.uk/downloads/download/4220/public_intelligence_population_publications)

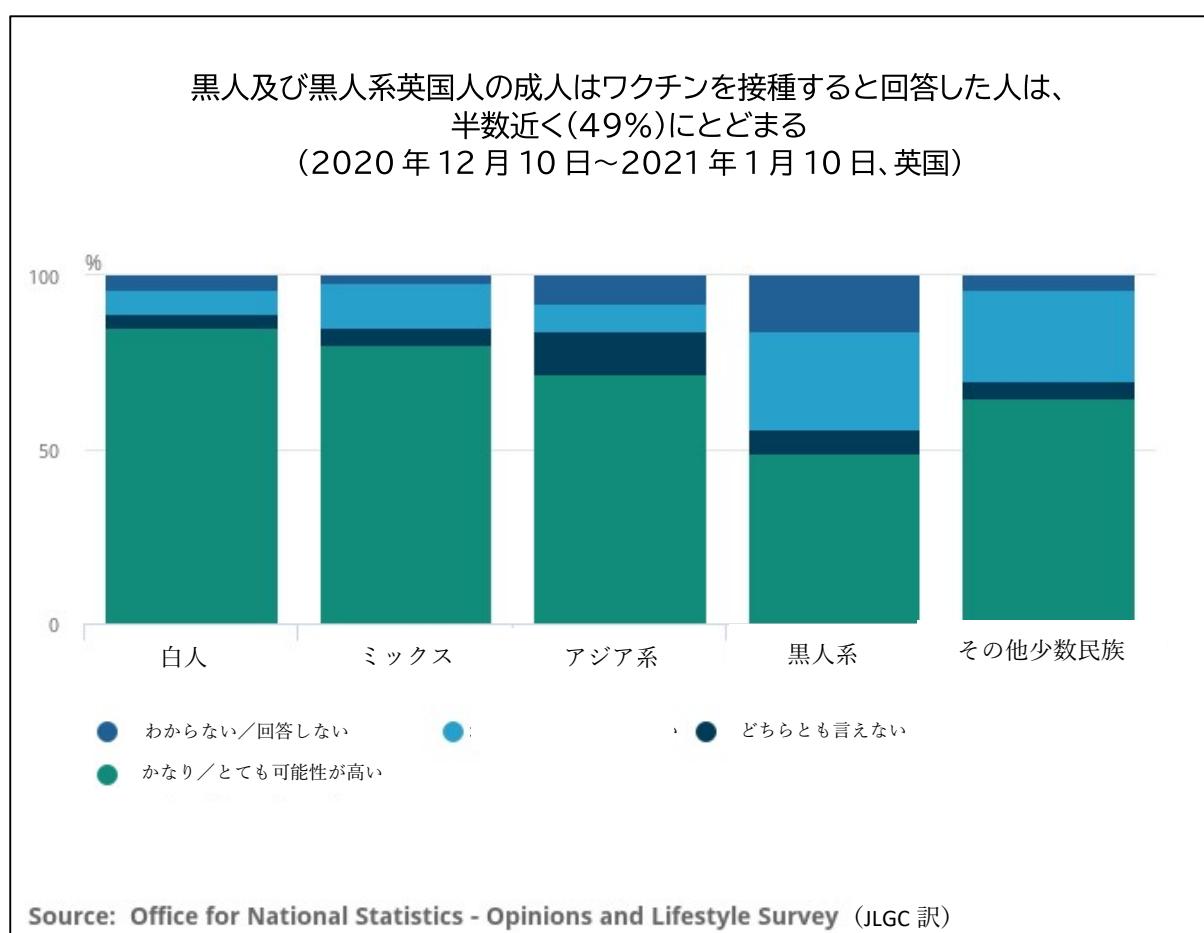
<sup>3</sup>LGA, Safely managing COVID-19: using insight in Greater Manchester, 1 February 2021.  
<https://www.local.gov.uk/case-studies/safely-managing-covid-19-using-insight-greater-manchester>

## ロンドン調査員レポート

資料を提供している。また、英語を母国語としない人を対象にデジタル・インクルージョン・サービスを導入し、外出などが制限される中で必須となったオンラインショッピング、友人や家族とのビデオ通話、低所得者向け給付制度のオンライン申請などのサポートも行っている。<sup>4</sup>

### BAME コミュニティにリーチするための最適なコミュニケーション方法の選択(ロンドン・ハンスロー区及びルイシャム区)

ロンドン・ハンスロー区では、東南アジア系住民やアフリカ・カリブ系住民のコミュニティを中心に、新型コロナウイルスのワクチンについて誤った情報が流布していることがわかった。特に、BAME(Black, Asian or Minority Ethnic : 黒人・アジア人・少数民族)の人々は、新型コロナウイルスワクチンの接種に消極的であることが調査で明らかになっていたため、このような噂は大きなダメージを与える可能性があった(図参照)。<sup>5</sup>



<sup>4</sup>website, Support and resources for BAME Communities.  
<https://www.gmcvo.org.uk/Coronavirus/BAMESupport>

<sup>5</sup><https://www.ons.gov.uk/peoplepopulationandcommunity/healthandsocialcare/healthandwellbeing/bulletins/coronavirusandthesocialimpactsongreatbritain/29january2021>

Royal Society for Public Health, New poll finds BAME groups less likely to want COVID vaccine, 2020.  
<https://www.rspah.org.uk/about-us/news/new-poll-finds-bame-groups-less-likely-to-want-covid-vaccine.html>

Robinson E, Jones A, Daly M. COVID-19 ワクチンの摂取と拒否の意図的な国際的な推定。A rapid systematic review and meta-analysis of large nationally representative samples. Vaccine 2021.[Epub ahead of print.] doi:10.1016/j.vaccine.2021.02.005.  
<https://www.medrxiv.org/content/10.1101/2020.12.01.20241729v1>

## ロンドン調査員レポート

この問題に対処するため、区はこれらのコミュニティのメンバーにグループインタビューを実施したところ、ワクチンの治験が性急に進められていると感じていることが不信感につながっていることが明らかになった。そこで、これらのコミュニティに働きかけ、情報を提供するための最適な方法を決定するために、行動科学に基づく知見を用い、Facebook 上でさまざまな種類のメッセージをテストした。メッセージの種類は以下のとおり。

- 1) ワクチンに関する FAQ ページにつながる区役所名でのメッセージ
- 2) NHS が作成したインフォグラフィックで、このワクチンは他のワクチンと同様の治験を受けていることを伝えたもの
- 3) 東南アジア系またはアフリカ・カリブ系の地元のかかりつけ医が 2)と同じメッセージを「迷信 vs 事実」と題して引用したもの
- 4) 東南アジア系またはアフリカ・カリブ系の地元のかかりつけ医が 2)と同じメッセージを「あなたの疑問にお答えします」と題して伝えたもの

The screenshot shows a Facebook post from the official page of the London Borough of Hounslow. The post is titled "ASK THE EXPERT" and features a photo of Dr. Gurcharan Salotera, a Hounslow GP, wearing a black turban and a dark shirt. The post includes the text: "You ask: Were the COVID-19 vaccine clinical trials rushed? Dr. Gurcharan says: The COVID-19 vaccine has been through the same rigorous clinical trials process as every other vaccine approved for use in the UK." Logos for the London Borough of Hounslow and "KEEP HOUNSLOW SAFE" are visible.

最もクリック数の多かった4)のメッセージの例(ハンスロー区 Facebook ページより)

それぞれの投稿について検証を行った結果、最もクリック数が多かったメッセージは 4)であることがわかった。これは、人々が、医者など権威のある人からの情報は受け入れやすく信頼できること、また、その人物が地元コミュニティのリーダーである場合は、情報が受け入れられる傾向がさらに高いという行動科学の知見からも説明が付く。

## ロンドン調査員レポート

また、このグループインタビューでは、人々はワクチンについてかかりつけ医に相談したいと考えているが、接種を強制されたり批判されたりすることは望んでいないという結果も得られた。今回の実験では、誤った情報を訂正する際には、メッセージをどのように伝えるかだけでなく、誰が伝えるかを考慮することが重要であることがわかった。

これを受けて、ハンスロー区では、FAQ セッションを行う際に地元のかかりつけ医を活用し、また、社会的規範に訴えるのが効果的であるという行動科学の知見を用いて、住民が予防接種を受けたことを示すためのステッカーを提供した。<sup>6</sup>

一方、ロンドンのルイシャム区は、一般的なコミュニケーション手段として、新型コロナウイルスワクチンに関する双方向的なウェビナーという手段を採用した。1月中旬に開催された第1回目のセミナーでは、区の公衆衛生部長と地元のエスニック・マイノリティのコミュニティ出身のかかりつけ医2名が講師を務め、一般公開された。このオンラインイベントは非常に人気があり、定員の500名に達したため、区は介護施設や再定住難民、特定の民族グループを対象とした専用セッションを開催することにした。<sup>7</sup>

### 地域のリーダーやチャンピオンへの支援(ロンドン・ルイシャム区)

ロンドンのルイシャム区では、人口の約半数がエスニック・マイノリティであるため、これらのコミュニティに働きかけることが不可欠である。そのため、ルイシャム区は他の多くの自治体と同様に、英国政府の「コミュニティ・チャンピオン・スキーム」による資金援助を受けた。このスキームは、地域社会に密着し信頼されていて、かつ行政情報のいきわたりにくい人たちとのコネクションのある人を「チャンピオン」に任命し、チャンピオン達へ情報提供やサポートを行うことで、より多くの人へ情報が届けられるようになることを目指すものである。ルイシャム区では、新しいチャンピオンを募集し、ワクチン接種に関する質問に答えるための研修やアドバイスを提供している。また、地域で信頼されている人物がワクチンを接種した様子を短いビデオに収めることで、ワクチン接種への不安を和らげ、接種がいかに簡単で重要なものであるかを伝えている。<sup>8</sup>

### ターゲットを定めた接種会場や臨時ワクチンクリニックの設置(マンチェスター市)

マンチェスター市では、ワクチンを辞退した人の数や理由を把握し、フォローアップするための追跡システムを構築しているほか、特定のグループの事情に合わせたワクチン接種を行っている。例えば、英語を母国語としない南アジアの人々を対象としたクリニックを2月に開設し、バイリンガルの接種者を配置することで、女性による接種などといった、個々の希望を伝えられるようにした。また、発達障害のある人を対象としたクリニックでは、専門の看護師が常駐し、落ち着いた静かな環境での接種が可能となっている。また、同市では、ホームレスの人々や移動生活者を対象とした移動式の予防接種クリニックを設けた。これらのカスタマイズされたアプローチのおかげで、マンチェスター市では、当初はワクチン接種を拒否していた350人を追加で接種することができた。

<sup>6</sup> LGA, London Borough of Hounslow: Used messenger principle to address vaccine misinformation, 22 February 2021, <https://www.local.gov.uk/case-studies/london-borough-hounslow-used-messenger-principle-address-vaccine-misinformation>

<sup>7</sup> LGA, Lewisham: Interactive Webinars prove to be effective way of encouraging vaccine confidence, <https://www.local.gov.uk/case-studies/lewisham-interactive-webinars-prove-be-effective-way-encouraging-vaccine-confidence>

<sup>8</sup> *Idem.*

地域に密着した臨時の診療所を設置しているのは、英国北部の都市だけではない。ロンドンのウォルサムフォレスト区やタワーハムレット区などでは、自治体がかかりつけ医の協会や地域コミュニティ（この場合はイスラム教徒のコミュニティ）と協力して、区内のモスクやホワイトチャペル地区のイーストロンドン・ムスリムセンターに臨時クリニックを設置した。このクリニックでは、住民は、自分の宗教とワクチンとの相性（例：ハラール（イスラム教の戒律）の遵守）などについてコミュニティのリーダーに質問することができ、仲間がワクチンを接種しているのを見て安心して、慣れ親しんだ環境の中でワクチンを接種することができた。

### 社会的結束力の長期的なメリット

インクルージョンと社会的結束を推進する政策を実施することは、新型コロナウイルスとの戦いに役立つだけでなく、長期的な利益にもつながる。

Abrams と Lalot が行った研究によると、自治体が統合やコミュニティの構築に力を入れている地域の住民は、より強い社会的結束力としなやかな回復力があることを示しており、これは新型コロナウイルス後の復旧・復興にも役立つ可能性があるという。社会科学において、社会的結束は、個人と政府との強い関係と個人と周囲の仲間との強い関係という 2 つのレベルに分けて定義されており、この研究はそれぞれのレベルについて行われた。<sup>9</sup>

個人と政府の関係性に関する調査では、自治体がインクルージョン政策に投資している地域の住民は、政府の広報活動やワクチンの接種率に悪影響を及ぼしている陰謀論を信じる傾向が少なく、学校の再開などといった政府の新型コロナウイルス対策の政策に関する決定を支持していることがわかった<sup>10</sup>。また、政治システムに対する不信感も少なくなっていた（「政治家は自分の利益のために政治を行っている」と思う人が 7%、「他の市民と同じように法律を尊重する必要はないと思う」と思う人が 5% 少なかった）。

また、個人同士の関係性に関しては、インクルージョン政策を行っている地域の住民は、それ以外の地域の住民と比較して社会的関係性が強く、良好である傾向があり（ロックダウン中に家族、友人、同僚、隣人とのつながりを強く感じたと答えた人が他の地域と比較しプラス 7%）、英国の移民に対してより肯定的な態度を取り（同 4%）、他の人も新型コロナウイルスの感染拡大防止のための規制を守っていると考えていた（同 5%）。さらに、ボランティア活動、署名活動、寄付活動、特定の製品のボイコットなどといった社会活動に参加する確率が 62% とかなり高かった。

結論として、今回のパンデミックのような危機的状況において、誰もが取り残されることのないよう、自治体がダイバーシティ及びインクルージョン政策を実施する方法は数多くある。このような草の根的なプログラムを通じて、自治体はより強いコミュニティを構築することができる。このことは、より高い回復力、政府への信頼性、より良い社会的関係といった長期的な利益をもたらし、円滑な復興とより幸せな社会の構築に役立つだろう。

<sup>9</sup>The Social Cohesion Investment, p.5

<sup>10</sup>Ibidem, p.7